

# 大麦情報(4号)

令和8年3月2日  
 砺波農林振興センター  
 JAなんと営農部

今年は2月中旬以降積雪が少なく、消雪期が平年よりやや早くなっています。ほ場に雪解水などが停滞しないように、早急にほ場の排水状況を確認しましょう。

- ①排水対策を徹底しましょう。
- ②分施肥の場合は、停滞水がなくなり次第、速やかに追肥を行いましょ。

雪解後、ほ場に水が多く停滞し、根が腐り、低収となった(H30)



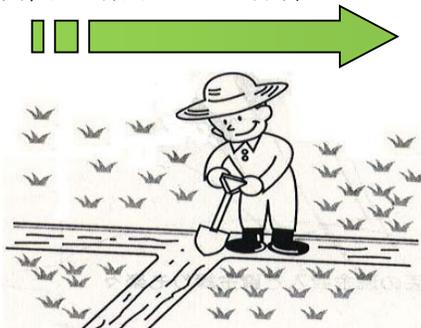
額縁排水溝	無	有
根量	3.2g	15.3g

図 止葉展開期の根の状況 (H30 南山田地区)

## 1 排水対策

排水不良のほ場では、根が腐り、登熟不良・低収となります。

すぐにほ場の排水状況を確認し、雪解水や雨水などが停滞しないように溝を手直ししましょう。



溝を排水口まで連結し、排水を促す

## 2 消雪後追肥の施用 ~追肥前に排水を良くし、肥料効率を高めましょう~

(1) 分施肥系 (は種時に「基肥555」を施用したほ場)

施用時期 (3月5~8日頃)	莖数	硫安の施用量
ほ場に停滞水がない状況で 施用直後に多雨や降雪が予想されない頃	少~並	20kg/10a
	多※	15kg/10a

※莖数『多』: 麦が繁茂し、土が見えないようなほ場 (㎡当たり1,200本以上)。

(2) 肥効調節型体系

(は種時に「エコ大麦44号」を施用したほ場)

原則、追肥は不要です。なお、色が極端に淡い場合などはご相談ください。

お問い合わせは、JAなんと営農部(62-0261) または  
 砺波農林振興センター南砺班(32-8147)へ

春の農作業安全運動実施中 3/1~5/31

JAなんとメールマガジンの登録は[こちらから](#)  
 登録情報をスピード  
 タイプにキャッチ!

